



平成30年10月15日 第814号

一般財団法人日本遺族会 千代田区千代田一丁目六番一七号 千代田会館三階 電話 03-3261-5521 00160-6-25389 編集発行人 畔上和男 毎月1回15日発行 定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

31年度 次年度の概算要求 一致結束して運動を展開

財務省は九月七日、各省庁が提出した平成三十一年度政府予算の概算要求総額を発表した。一般会計の総額は百二兆七千六百五十八億円となり、五年連続で百兆円を超え、これまで過去最大だった平成二十八年年度要求額を上回った。本会関係では、遺骨収集事業等の推進費増額など本会の要望事項がほぼ盛り込まれた。

財務省は、八月末に提を百一兆七千六百五十八億円で発表された。各省庁の平成三十一年度概算要求の総額も九月七日に開かれ、平

平成31年度 遺族処遇改善項目 平成30年8月31日概算要求

恩給法関係	
1 恩給費	2,017億円
厚生労働省関係 (恩給に関連する遺族年金等を除く)	
1 援護年金	77億1,800万円
2 遺骨収集事業等の推進	24億4,000万円
(1) 硫黄島遺骨収集事業	13億7,200万円
(2) 南方・旧ソ連地域遺骨収集事業	7億6,000万円
・現地調査実施地域 (8地域)	(3億1,000万円)
・遺骨収集実施地域 (19地域)	(3億3,200万円)
・法人運営経費	(1億2,700万円)
(3) 海外公文書館等の資料収集	4,700万円
(4) 遺骨の鑑定	1億9,300万円
(5) 遺骨・遺留品伝達	3,300万円
うち、遺留品調査の迅速化に係る経費	(1,300万円)
3 戦没者慰霊事業等	5億9,400万円
(1) 全国戦没者追悼式挙行経費	1億5,100万円
(2) 慰霊巡拝等	4億4,300万円
・慰霊巡拝実施地域 (12地域)	(1億円)
・政府建立慰霊碑の補修等	(6,200万円)
・海外・国内民間慰霊碑の管理	(2,200万円)
・戦没者遺児による慰霊友好親善事業 (広域地域14地域 特定地域3地域)	(2億5,900万円)
4 昭和館事業	5億2,000万円

※ 百万円単位で四捨五入している。

成三十一年度予算編成に向けた議論を本格的にスタートさせた。本会関係では、遺骨収集事業等の推進強化経費が本年度予算額に対し二

千四百万円増額され、特に南方・旧ソ連地域の遺骨収集や現地調査費用等が増額されている。また、政府主催の戦跡慰霊巡拝費が千三百万円増額要求され、昭和館事業経費では、戦後世代の語り部育成費として七百万円を要求するなど、戦没者遺族の処遇改善等に関する本会の要望事項が概ね盛り込まれた。



第4ブロック会議で挨拶する水落敏栄本会会長 =10月4日、香川県で

しかし、財務省は年末の予算編成に向けて各省庁の要求を厳しく査定する方針を示している。各

ブロック 真剣な議論が交わされる

九月から十月にかけて、各ブロック会議が相次いで開催された。

本会からは水落敏栄会長、宇田川勲雄、市来健之助の両副会長らが手分けして出席した。また各道府県遺族会から正副会長、女性部長等の役員、青年部及び事務局局長らが出席して、遺族会が抱える諸問題等真剣な議論が交わされた。

成・活動状況など、取り組むべき課題について議論が交わされた。

第一ブロック会議は九月十三、十四日、上山市日本の宿古齋で、第五ブロック会議は九月二十、二十一日、大分市大分護国神社で、第三ブロック会議は九月二十七日、二十八日、奈良市ホテル日航奈良で、第四ブロック会議は十月四、五日、高松市ホテルパールガーデンでそれぞれ開催された。

なお、第二ブロックは十月十八、十九日に甲府市で開催される。

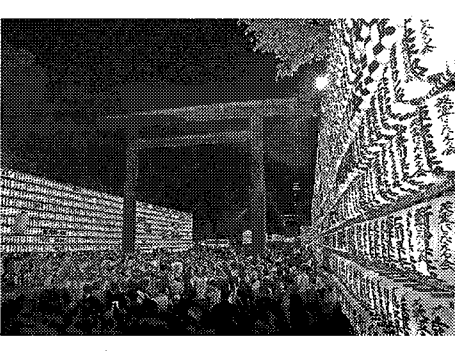
平成30年 『台風21号』および『北海道胆振東部地震』により 被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます

一般財団法人 日本遺族会

先の戦争の終戦から73回目の夏、平成最後の夏、この夏にもたらされた自然災害の猛威は、秋の夜長に虫の音を響かせる季節になってもその驚異は留まる所を知らず、海水温の高さはここぞとばかりに台風を量産してくる。『いかげんにしろ』と怒りの矛先をどこに向けたらいいのかわかっている。そんな中この節目の年にある若者の記事に目が止まった。学徒出陣した同世代への思いである。武器を手に戦い、戦火に倒れた学徒の手記には、死への覚悟や家族への思いのほか「もう一度大学で学びたい、本を読みたい」という願いも綴られていたという。同い年の人や同じ大学の先輩も大勢いたことに驚き、悲しい気持ちになったが、しかし前線に戦っていた人達が「生きて」と人間らしい純粋な感情を持っていたことに安心感も覚えたという。戦争は命だけでなく、個性・希望・夢・思い等全てを奪ってしまう残酷なもの。これらの声にも耳を傾けねばならない。『かの村や水きよらかに日ざし濃く疎開児童にむきき人々』の句には親元をはなれて田舎で集団生活を余儀なくされた描写がある。淋しさに加え戦争中の集団疎開の現実、こんな思いをした子供達もあつたのかも知れない。受け入れ側にも事情がある。あの戦火の時代から73年の時が流れた。学徒や疎開児童のことも伝えねばならない。(A)

先ず戦争の終戦から73回目の夏、平成最後の夏、この夏にもたらされた自然災害の猛威は、秋の夜長に虫の音を響かせる季節になってもその驚異は留まる所を知らず、海水温の高さはここぞとばかりに台風を量産してくる。『いかげんにしろ』と怒りの矛先をどこに向けたらいいのかわかっている。そんな中この節目の年にある若者の記事に目が止まった。学徒出陣した同世代への思いである。武器を手に戦い、戦火に倒れた学徒の手記には、死への覚悟や家族への思いのほか「もう一度大学で学びたい、本を読みたい」という願いも綴られていたという。同い年の人や同じ大学の先輩も大勢いたことに驚き、悲しい気持ちになったが、しかし前線に戦っていた人達が「生きて」と人間らしい純粋な感情を持っていたことに安心感も覚えたという。戦争は命だけでなく、個性・希望・夢・思い等全てを奪ってしまう残酷なもの。これらの声にも耳を傾けねばならない。『かの村や水きよらかに日ざし濃く疎開児童にむきき人々』の句には親元をはなれて田舎で集団生活を余儀なくされた描写がある。淋しさに加え戦争中の集団疎開の現実、こんな思いをした子供達もあつたのかも知れない。受け入れ側にも事情がある。あの戦火の時代から73年の時が流れた。学徒や疎開児童のことも伝えねばならない。(A)

平成三十一年版 靖国カレンダーを 家庭にかかげましょう



期間中約20万人の出入で賑わった平成29年 靖国神社みたままつり(毎年7月13日~16日)

- 申し込み方法
 - 維持会費 一口五〇〇円(送料別途)を添えて
 - ①英霊にこたえる会靖国カレンダー「業務室」(〒101-0073 東京都千代田区九段北三丁目一靖国神社遊就館内) 電話03-3333-6414 FAX03-3333-2611
 - ②別途申込書で、お住まいの「英霊にこたえる会都道府県本部」宛ててお申し込み。送料は前記「都道府県本部」または「靖国カレンダー業務室」にお問い合わせ下さい。
- 送付先
 - 維持会費は、左記宛に送金願います。
 - 郵便局 郵便振替
 - 口座番号 〇〇一六〇一七〇四
 - 口座名 英霊にこたえる会 靖国カレンダー業務室

英霊の御心を 次の世代に伝えましょう

一般財団法人 日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、英霊顕彰や遺族支援など様々な活動のために賛助金を募っております。本会は、これまで英霊の顕彰並びに戦没者遺族の福祉増進をはかるため、日々活動を行ってきたところでございますが、東日本大震災により収益部門であった九段会館が閉館したことに伴い、現在、慰霊友好親善事業をはじめ遺骨収集帰還等各種事業の継続が大変厳しい状況にあります。本会といたしましては、各種事業を行うにあたり、今後とも努力していくことは勿論のことですが、戦没者ご遺族並びに本紙ご購読者、本会の諸事業にご賛同される皆様方より一層のご支援・ご協力を仰がなければなりません。本会の活動の趣旨にご理解を賜り、何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。大変恐縮ですが、ご賛同いただいた方の氏名を本紙に掲載し、お礼に代えさせていただきます。

※賛助金につきましては、誠に勝手ではございますが、お一人様1万円程度からお願いしております。

賛助金のお振込みは

●郵便振替 00130-2-694929 ●みずほ銀行 九段支店 普通預金 0980930

口座名はいずれも「一般財団法人日本遺族会：ザイ）ニホンソクカイ

※ご不明な点は本会事務局(電話03-3261-5521)までお問い合わせ願います

旧ソ連で31柱を収容

ハバロフスク・ゴリン村で

JARRWC

日本戦没者遺骨収集推進協会(JARRWC)は、旧ソ連抑留中死亡者遺骨収集派遣ハバロフスク地方第二次を八月二十七日から九月十二日までの十七日間実施した。本会からは四人が派遣協力し、全国抑留者協会、JYMA日本青年遺骨収集団、国際ボランティア学生協会からの参加団員とともに、埋葬地での遺骨収容に従事し、三十一柱を収容した。

ハバロフスク地方第二 次遺骨収集派遣団は、ハバロフスクから列車でコムソリスクへ移動し、八月三十日、車でソール

ネチヌイに到着した。派遣団は八月三十一日から九月八日までソール地及び第五収容所第四九二二野病墓地で遺骨収集を実施した。

人の日本人抑留中死亡者が埋葬されている第四九二二野病ゴリン居住地区及び第五収容所第四九二二野病墓地で遺骨収集を実施した。

未送還遺骨情報収集を実施 硫黄島・南方三地域で調査

日本遺族会は、日本戦没者遺骨収集推進協会(JARRWC)が実施

している海外に未だ残されている遺骨に関する情報収集を行う現地調査及び回収期間中は、天候不順で作業を中断することもあり、長時間にわたる



洞窟付近で遺骨を探索する団員=8月28日、サイパン島バンザイククリフで

硫黄島の掘削立会調査に派遣協力しており、今回マリアナ諸島、東部ニューギニア、硫黄島に本会から各調査に一人、ビスマーク・ソロモン諸島に三人を派遣した。マリアナ諸島には、八月十九日から三十日の期間で派遣協力し、関係行政機関等と協議を重ねて掘の許可を得て、サイパン島の極楽谷、バンザイククリフ、マツビ等で洞窟内等を調査した結果、五十四柱(推定)の遺骨を収容した。

日本遺族会は二月二十日開催の第十四回理事會において、「今後の遺族会を考える特別委員会」の設置を決め、その第一回特別委員会が九月五日、開催された。

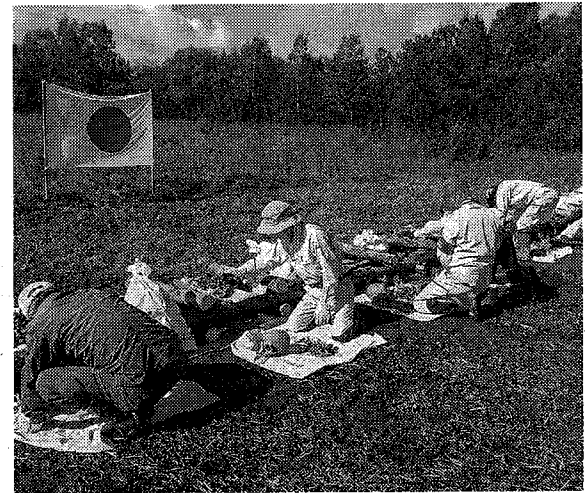
第一回特別委員会を開催 約一年半をかけて協議

宇田川委員長が座長となり、はじめに委員会の名称を「今後の遺族会のあり方を考える特別委員会」と決定した。

特別委員会で検討する事項等について協議がなされ、特に、高齢化著しい遺族会の現状把握の必要性から、支部の実態調査を行うことが決められた。今後、約一年半程度かけて協議を重ね、水落会に報告書を取りまとめ提出する予定となっている。

第四次安倍改造内閣発足

安倍晋三内閣総理大臣は十月二日、内閣改造を行い、第四次安倍改造内閣を発足させた。今回の内閣改造は、外交・経済で実績を持つ「政権の土台の維持」と来年夏の参院選の勝利に向けた党内融和の両立を目指すもので、閣僚十九人の内、安倍内閣で最多とな

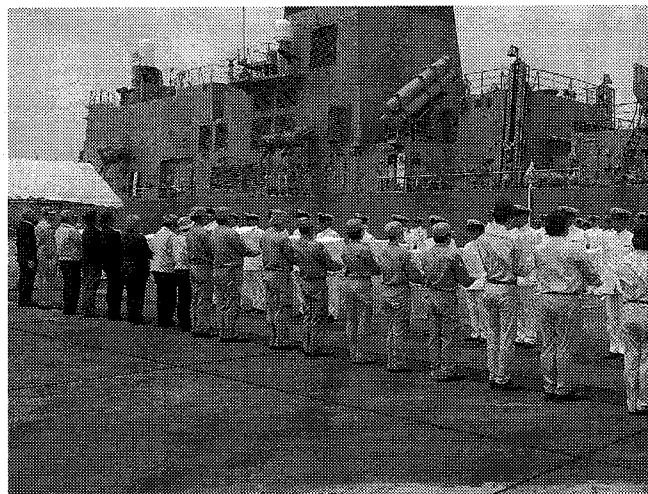


焼骨式の準備をする団員=9月8日、ソールネチヌイ地区ゴリン村で

護衛艦「さざなみ」

ソロモン諸島より送還

推進協会(JARRWC)は、ビスマーク・ソロモン諸島戦没者遺骨収集派遣(第一次)を九月十九日から三十日の期間でソロモン諸島ガダルカナル島において実施し、本会からは三人を派遣協力した。



海上自衛隊護衛艦「さざなみ」の前での遺骨引渡式=9月25日、ガダルカナル島ホニアラ港で

日本へ帰還し、翌日千島ヶ淵戦没者墓苑での引渡式に臨み、参列した関係遺族が見守る中、厚生労働省職員に遺骨を引き渡した。

本国外務省の遠山茂特命全權大使をはじめ多くの現地行政機関関係者、在留邦人等が参列し、英霊の冥福を祈り、献花した。また、遺骨は護衛艦「さざなみ」により日本へ送還され、十月十日に横須賀港(海上自衛隊横須賀基地)において厚生労働省に引き渡された。

山田周二氏(事務局長協和館館長)、八神敦雄氏(厚生労働省大臣官房審議官・援護担当)の以上十三人

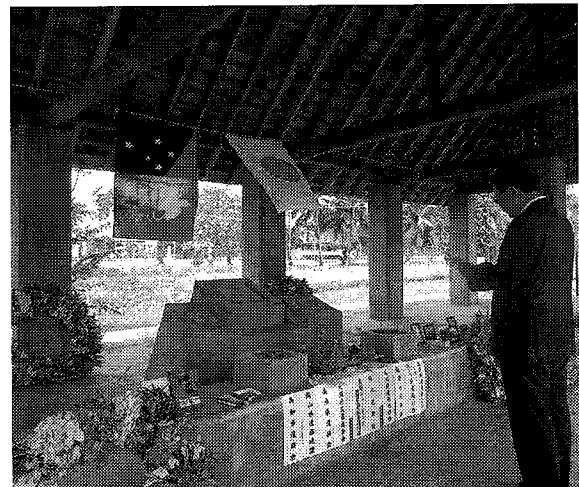
好問 友訪 霊善 慰親

三地域相次いで実施 亡き父たちに語りかける

日本遺族会では九月、戦没者遺児による慰霊友好親善事業の東部ニューギニア、ビス...

東部ニューギニア

水落敏栄本会会長を総括団長とする東部ニューギニア慰霊友好親善訪問...



全戦没者追悼式で追悼の辞を述べる水落敏栄総括団長(本会会長) = 9月10日、ウエワクで

ムツシユ島、ボイキン、機上選擇し、眼下に見え...

ビスマーク諸島

ビスマーク諸島慰霊友好親善訪問団(団員十四人・付添者含む)は九月...



ヌマヌマの慰霊碑前で亡き父に語りかける団員 = 9月7日、ブーゲンビル島で

西部ニューギニア

伊藤早苗本会評議員を団長とする西部ニューギニア慰霊友好親善訪問団...



懇談会に小学校の児童を招いて交流を深める = 9月20日、ビアク島で

慰霊友好親善事業

参加者募集

募集要項は次のとおり 時期及び地域 実施 概要参照...

り寄せていただき、記入項目に不明な点(戦没者の部隊名等)があれば各遺族会に相談し条件を満たしたうえで提出願いたい。...

実施概要

Table with columns: 実施地域, 実施時期, 募集人員, 申込締切. It lists four regional events: 1. 台湾・バシー海峽, 2. マーシャル・ギルバート諸島, 3. フィリピン(2次), 4. 中国.

本会への 賛助金のお礼

本紙(二面)でもお願している本会への賛助金につきましては、ご賛同いただきました左記の方々に対し、お礼申し上げます。

本会事業参加者の皆様へ

野悦子、吉田茂、富田育子、木内みはる、伊藤輝子、石田義久、田中邦友、鈴木純、千葉政吉、筑紫真枝(以上、九月一日から九月末日まで) 皆様からいただきました賛助金は、本会が実施する各種慰霊事業などの活動費用に利用させていただきます。誠にありがとうございました。

米国オレゴン州訪問 OBONソサエティと協議

品業 留事 返還

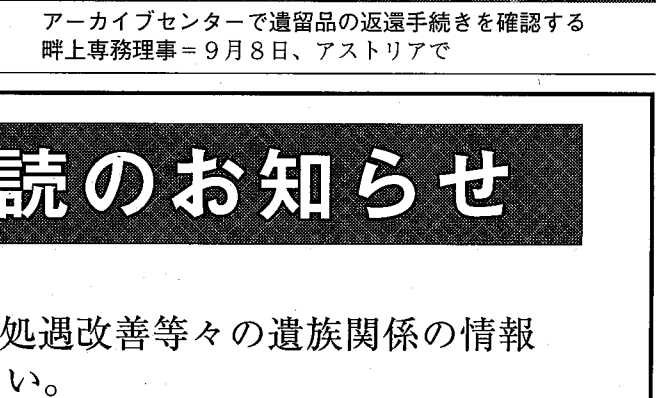
日本遺族会が平成三十年度より厚生労働省から委託を受け実施している「戦没者遺留品の返還に伴う調査」事業として、九月六日から十日の期間で畔上和男専務理事(他事務局一人)はアメリカのオレゴン州を訪問し、本事業の協力団体であるOBONソサエティの活動状況を確認するとともに今後の業務の進め方等について協議した。

九月六日にオレゴン州ポートランドに到着した一行は、OBONソサエティ共同代表レックス、敬子ジーク夫妻に歓迎され、ポートランド市内の会議室でOBONソサエティを支援している有識者との会合に出席し、OBONソサエティの活動の重要性等について意見を交換した。会合後、OBONソサエティを支援するオレゴン歴史博物館、民間団体等を視察した後、OBONソサエティの本部があるアストリアへ移動した。

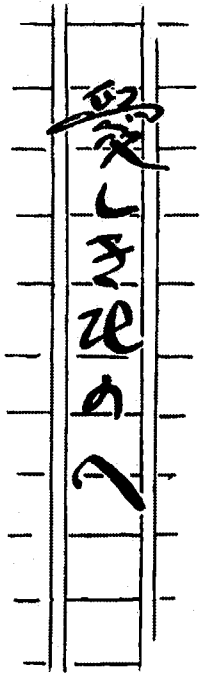
七日、アストリア市長を表敬訪問した後、コロンビア川海洋博物館の会議室で、OBONソサエティ側の理事、弁護士と面談し、OBONソサエティが活動を継続していくための問題点、本会から事業の一部を業務委託することに伴う契約手続き等を協議した。また、同博物館にあるOBONソサエティが監修した日章旗返還に関する常設展示コーナーを見学した。翌八日は、事務所となっているジーク氏の自宅で活動状況の詳細について説明があり、アストリア市内に借りているアーカイブセンター(記録保管所)では、実際に米国内外から届く日章旗等の遺留品の記録及び情報処理方法等を視察した。



OBONソサエティを支援する有識者との会合
=9月6日、ポートランドで



アーカイブセンターで遺留品の返還手続きを確認する
畔上和男専務理事=9月8日、アストリアで



入営に際して父母様へ

陸軍技術兵長 中根 秀夫

昭和二十一年六月十八日
朝鮮古茂山にて戦病死
愛知県挙母市大字梅坪出身 二十三歳

生まれてこの所に二十余年の歳月、父母様にはいろいろと心配をかけた。今後は、ただ父母様の日頃のご教訓を守り盡忠報国の一念に燃え、父母様のご苦勞の万分之一なりとも報ゆる覚悟でございますから、ご安心ください。また我々兄弟三人が、目出度く凱旋の日をお待ちください。今後、統後は益々多忙ですが、身体に充分注意され、日々ご健在でお暮しくください。終わりに父母様の健康をお祈り致します。

秀夫より

昭和二十一年一月二十七日

父母様へ

(原文のまま)
平成三十年十月靖国神社頭掲示
愛しきものへ

九段短歌

選者 安元 百合子

「里の秋」歌の真実聞かされて平和の今をあらためて知る
甲州市 三森 一雄

ささやかな吾が思ひなり献じたる「みたま祭り」の灯に足らふ
鳥栖市 松尾美津子

白菊の手に持ち進む中学生世代をつなぐ慰霊のきずな
佐世保市 田中 暁

大方は餓死とふ南の島青く兵は永久にここに眠る
富士吉田市 菅沼 勝由

戦死せし父のみ位牌葬列にしかと持ちたり五つのわれは
青森県 田中 恭子

父の顔知らねど吾に父ありと軍服の写真に父上と呼ぶ
長野市 斎藤 由明

五歳から戦争遺児の境遇はがまん我慢の七十余年
長野市 斎藤 由明

地方より

各都道府県遺族会で、実施された大会、研修会等は次のとおり。

▼青森県 8月28日
名古屋市 小坂 れい
京都府 阿部 晋
千葉市 石橋 寿子
相馬市 柴田 征子

今月は様々な視点の歌が届きました。「里の秋」は昭和十六年に戦地の父への慰問文として作詞され、題名は「星月夜」で曲はなかったそうです。一番と一番の歌詞は現在と同じですが、戦争が拡大した頃、三番は「椰子の島、武運を祈る」四番は「兵隊になり国を譲る」という内容に変わりました。終戦後NHKラジオで放送するに当り、題名を「里の秋」三番の歌詞を「さよなら さよなら椰子の島」と変えたそうです。まさに歌に歴史があります。戦後の遺児の生活の悲しき、苦しき、悔しさに憤りを覚えました。(選者)

沖繩の慰霊の式に中学生朗読せし詩「生きる」に泣けり
終戦日遺影に語る母の背の細き姿やあをく夏空

- ▼福島県 9月19日 平成30年度小田山忠霊堂慰霊祭(450人)
- ▼愛知県 9月20日 愛知県遺族連合会会長表彰式(120人)
- ▼山梨県 9月26日 県下戦没者遺族大会(680人)
- ▼岩手県 9月30日 女性部・青年部合同研修会(90人)
- ▼高知県 9月9日 高知県遺族会創立70周年記念遺族大会、青年部結成式(300人)
- ▼北海道 9月18日 全道女性部研修会(129人)
- ▼徳島県 8月30日 平成30年度徳島県戦没者遺族大会(1000人)
- ▼青森県 8月28日 9月8日、第48回語り部事業(40人)

日本遺族通信 年間定期購読のお知らせ

毎月、お手元までお届けする年間定期購読です。戦没者の英霊顕彰(遺骨帰還、慰霊友好、慰霊巡拝)、遺族の処遇改善等々の遺族関係の情報を掲載しておりますので、是非、この機会にお申し込みください。次世代を担う青年部(孫・ひ孫)の皆様も是非お申し込みを。

年間購読料/1,560円(1年間 12回 税金・送料込)
お申込み→日本遺族会事務局 ☎03-3261-5521
FAX03-3261-9191